

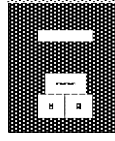
ごぼれ話

昭和27年、見合いで結婚したご夫婦がいた。当時ではめずらしく熱海に新婚旅行に出かけた。鈍行列車で1日以上かかった。「寛一お宮」の松の木も見て宿に入った。新妻は改めて夫に「末永くお願い申し上げます」と頭を下げた。料理が運ばれた。夫は熱燗を口にしました。長旅と酒のせいかわは眠気に襲われた。後

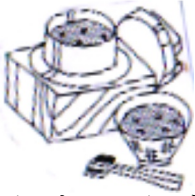
ろの蒲団を引き寄せ「少し寝る」と言って目をつぶった。新妻も少し気が緩み、ついプーとおならをした。「(あつどうしよう!)」と焦り、旦那の枕元にすり寄り「旦那様聞こえましたか?」と小声で尋ねた。夫は寝ている。(狸寝入りでは)

と思い、再び枕元に行き「旦那様、先天地震が起きたらどう覚えていますか?」と聞いた。夫は目をむつむつたまま「それは尻の前が後が」と!

わが家の



ワカメとニンジン、エノキダケ、根シヨウガの和え物



「材料」早採りワカメ、エノキダケ、ニンジン、根シヨウガ、つゆ、みりん、出汁の素、御酒。

「つくり方」早採りワカメが店頭に並んでいますね。これを使わない手はありません。ワカメの刺身ももちろんです。酒のつまみにも最高! (津軽石/Y・K)

住宅再建策が未定は977世帯。最後の一人までフォローしてこそ人間復興!

最後の一人まで

仮設(応急+みなし)入居者数は2292人も!

住宅再建策が未定の方が

市の生活課・被災者支援室の「被災世帯情報NO・12」によれば今年1月1日現在、応急仮設住宅入居世帯数は774、みなし仮設入居世帯は269で合計1043という状況で、文字通り最後の一人までくらし・住ま

い再建をフォローするかどうかが問われます。977世帯が住まい未再建の現実

購入したり、家屋を補修。半壊家屋で補修。災害公営住宅入居です。住宅再建がまだの世帯は977世帯です。問題はこれらの被災者が自力再建か、災害公営住宅入居か、それとも未定なのか、ということ。県復興局生活再建課の資料によれば昨年12月末時点で「住まいの再建方法の意向把握状況調査」で住まい再建方法が「未定」の世帯は118です。未定の要因・障害を把握し丁寧な対応、支援策を



読者の文芸欄

誰がためにリンゴは旨味貯える店頭リンゴも献上リンゴも ● 覚醒剤吸いたる人のみ追うメディア 甘き利吸いたる人は追わずに 自注/どこかに差がある。覚醒剤をやった人を弁護するではないけれど 甘い利を吸った人はどこかで保護されている感がある。

広域議会視察 児玉都市センター 粗大ごみ処理を兼ねて



小山川クリーンセンター

埼玉県本庄市にある児玉都市広域市町村圏組合小山川クリーンセンターが2ヶ所目の視察先でした。1市3町で構成する広域行政組合立のクリーンセンターで、余熱を利用して「湯かっこ」という温水プールも併設しています。

ゴミ焼却施設と粗大ごみ処理を備えた総合的施設 / かつ発電機も

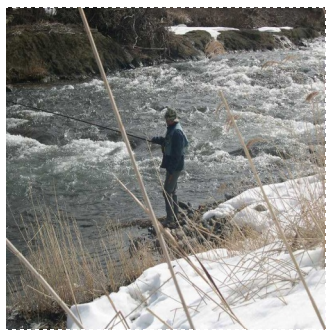
このクリーンセンターの特徴は、可燃物だけでなく粗大ごみも同時に受け入れ処理していることです。そのために広域組合の最終処分場はもっていません(構成市町村は持っている)。

可燃物処理能力は228トン/日(76ト×3基/24時間)で、蒸気タービン方式(最大2400kw)で、余熱利用として施設内に熱源供給。また隣接する温水プール「湯かっこ」(指定管理)を抱えています。

粗大ごみ処理は68ト/5hで、二軸粗破砕機+堅型回転式破砕機の併用型です。粗大ごみを破砕したうえで可燃、不燃、資源(缶、びん、ペット)などに分類処理しています。最終処分場に運搬されるのは飛灰で、それを固化し埋めているだけです。

ゴミ処理施設107億円/粗大ごみ処理30億円で初期整備

平成26年度の月平均の売電量は980万円で年間1億2000万円という実績です。両者ともゴミ搬入量の分析が残されました。



「変化に敏感だと腕がいい?夫は私が怒った時だけだがえ。私に心がねえのす」...やべえ!

釣り情報

渓流釣りは海釣りに比べて難しい、と言われる。一口に渓流釣りと言ってもヤマメとイワナ、ウグイではその難易度は全く違う。

イワナやウグイはエサを喰えろと簡単には離さないのバラすことはまずない。しかし、ヤマメは違う。エサをつまんで異物と判断すれば即離してしまう。その時間たるや0.5秒とも言われるから瞬時のことだ。つまりヤマメの場合は常に目印を注視し、目印に変化を見たらすぐに合わせを入れないと釣れないということになる。ヤマメ釣りで二けたの釣果をあげる方は「腕が立つ」ということになる。